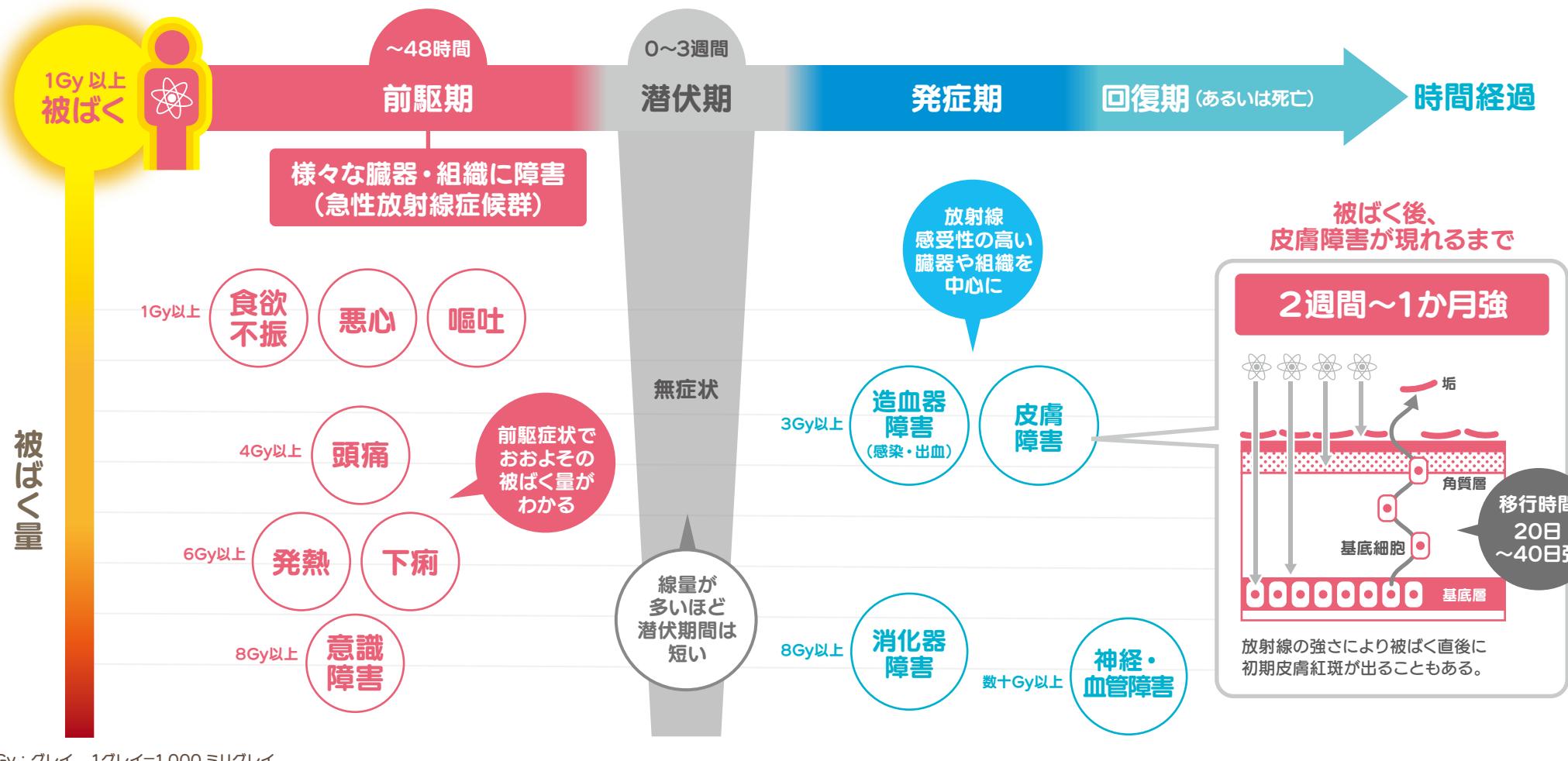


確定的影響

急性放射線症候群

全身に1グレイ以上の被ばくをした際、様々な臓器・組織に障害が生じ、複雑な臨床経過をたどる一連の臓器障害



皮膚は大人の体で 1.3 ~ 1.8 m²とかなり大きな面積を持つ組織です。また、表皮は、基底層で生まれた基底細胞が徐々に分化を遂げながら表面に押し上げられていき、角質層となり最後は垢となって体表面から離れます。基底層から表層への移行時間は大体 20 日～ 40 日強といわれています※。放射線の影響を受けた角質層から基底層までの細胞は表面に現れるのに2週間から1か月強程度の時間が掛かります。このため、放射線の強さにより被ばく直後に初期皮膚紅斑が出ることがあります、一般に皮膚障害は、被ばく後2～3週間経ってから現れます(上巻 P25「外部被ばくと皮膚」)。 ※出典：UNSCEAR 1988、「放射線の線源、影響及びリスク」放射線医学研究所監訳、(株)実業広報社、平成2年3月